

2006 年度

科目名 倫理学概論 B	対象学科・学年 文学部文財 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 林 進
授業テーマ 近代ヨーロッパ倫理思想概観		
授業の概要と目標 ヨーロッパ近・現代を中心に倫理思想を概観する。とくにカントに代表される近代の道德論と、その近代の道德価値に対して批判の刃を向けたニーチェの反道德論を両輪にして、実存主義や社会契約説の道德論、あるいは功利主義やプラグマティズムの道德思想を説明し、善と悪、罪と罰、正義と自由、などの問題を考察する。		
評価方法 レポート提出もしくは筆記試験。出席重視		
テキスト プリント配布	著者	出版社
参考書 授業の中で指示	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 「私」という存在をめぐって——デカルトとニーチェとフロイト 2. 実存主義（1）——キルケゴールの「単独者」とニーチェの「超人」 3. 実存主義（2）——ハイデガーとサルトル 4. 社会契約説——ホッブズとロックとルソー 5. 功利主義——ベンサムとミル 6. プラグマティズム——パースとジェイムズとデューイ 7. 正義とは何か——ロールズの正義論 8. 善とは何か——カント道德とドストエフスキー『罪と罰』をめぐりながら 9. 悪とは何か——カント道德とドストエフスキー『罪と罰』をめぐって 10. ニーチェの道德批判（1）——善悪の起源と彼岸 11. ニーチェの道德批判（2）——ルサンチマンとキリスト教道德 12. ニーチェの道德批判（3）——「良心」と「良心のやましさ」の起源 13. なぜ道德的であるべきか（1）——カントの道德律と社会契約説の道德（1） 14. なぜ道德的であるべきか（2）——カントの道德律と社会契約説の道德（2） 15. レポート提出もしくは筆記試験		